プロの養成には、教官との認識理解も大事と思う我なり

今年度の授業が始まった。
教材として使う配布資料の準備は学校によって異なり、学校側でコピー準備してくれる所と、「先生方で授業開始前にコピーしてください」と云われる所がある。
自分でコピー準備してくれるように云われている学校にも、厚かましく我が儘を云って、前もってクラス担当教官に添付送信してコピー準備をお願いしている。
それは、非常勤講師が、一体どんな教材を使っているのかを、担当教官にもコピー準備の折にひょうとして目にして気づいてもらい、授業へのアドバイスやコメント等を聞く機会が増えるのでないかと思うからである。

その意図が活きたか、ある教官からの返信の中に次の一文があった。
【　資料とビデオ準備の件、了解いたしました。
「宇宙カレンダー」…、学生はどのような反応をするのでしょうか…楽しみです。　】

準備のお礼方々、次のようなことを加えて返信した。
【　授業科目内容の対象となる障害、難病の成因を理解させるには、どうしても生命現象をまず理解させてからと考えています。
それには、まず自らの生命をどう考えるかのヒントとして、次回授業では「宇宙カレンダー」の配布資料と関連ビデオを教材に使います。

つまり、自分の生命とは、宇宙誕生から永々と繋がっている生命現象であることに気づき、「たかが人生」ではなく、「されど人生」と考えて欲しいからです。
そうした視点に立つと、障害がある、なし、ということは、生命現象の営みの前ではさほど重要な問題でないと気づき、学生個々の障害児観が変わってくれるのでないか、という私の切なる願いからです。
養老猛司氏の言葉を借りれば、「自分は子どもたちに何を説くべきか、それを考えるのが教師である。
それは教師の第一歩であり、最後であろう。」ということかな。

あれっ、ごめんなさいね、先生に講義しちゃったかな(^o^)
じゃあ、先生が代わりに授業で話してくれるなら、私は休んでもいいかな？(^o^)　】

学校によっては、常勤担当教官と顔さえ合わせられない所がある。
もちろん学生とのコミュニケーションは大事だが、プロの養成に当たっては認識を理解・共有するために、教官とのコミュニケーションも大事かなと思う我です。

それにしても我が儘から、学務にも忙しいのにコピーの準備をさせて、本当に申し訳なく、m(_ _)m

阿部幸泰　　（2007 年 4 月 23 日　記）